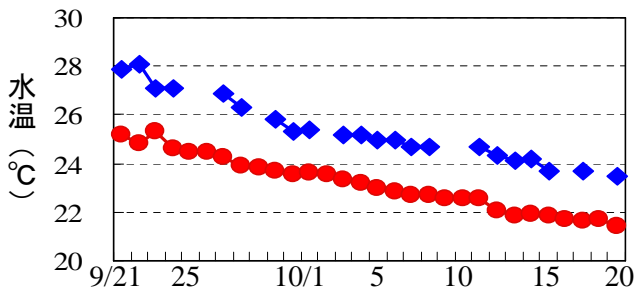


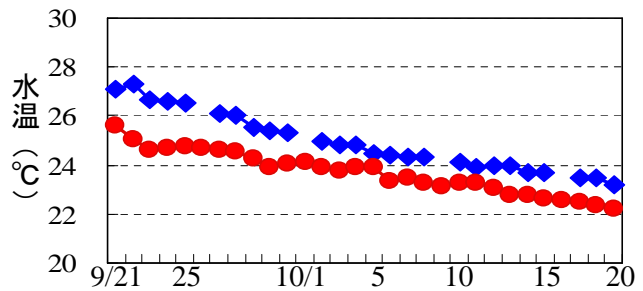


## 〔 海の状況 (9/21~10/20) 〕

- ・ 神子表面水温・・・期間全体をとおしてはなはだ高め（過去30年平均より2.0℃程度高め）で推移した（図1）。
- ・ 米ノ表面水温・・・期間の初めははなはだ高め（過去10年平均より2.0℃程度高め）、中頃はやや高め（過去10年平均より0.5~1.0℃程度高め）、終わりはかなり高め（過去10年平均より1.0~1.5℃程度高め）で推移した（図2）。



◆ 神子(2010) ● 神子平年(過去30年平均)  
図1. 若狭町神子地先における表面水温の推移



◆ 米ノ(2010) ● 米ノ平年(過去10年平均)  
図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

- ・ 100m 深水温・・・若狭湾沿岸域には 15℃台の水域が広がっていた（図3）。

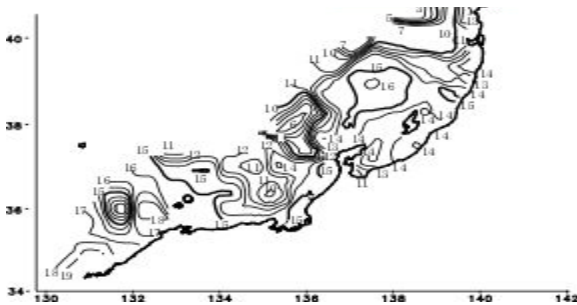


図3. 2010年10月上旬の100m深水温

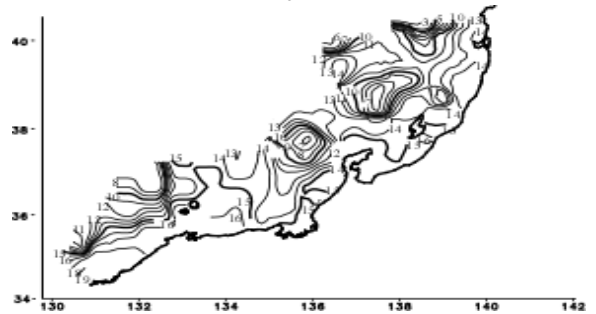


図4. 2009年10月上旬の100m深水温

資料：日本海区水産研究所ホームページ発表の日本海漁場海況速報

## 平成 22 年度第 3 回日本海海況予報

日本海区水産研究所が平成22年10月~12月までの日本海海況予報を発表しましたので、関係部分を紹介いたします（本予報は、日本海区水産研究所のホームページ(<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp>)の最新情報の中に掲載されています）。

- 隠岐諸島北東の暖水域は、南東に移動して丹後半島に接近するでしょう。
- 山陰・若狭湾沖冷水域の張り出しは、やや弱めで経過するでしょう。
- 対馬暖流域の表面水温は、かなり高めで経過するでしょう。
- 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部および北部ともやや高めで経過するでしょう。

(鮎川 航太)

## 大型クラゲ情報

10月21日現在、日本海の各県の調査船調査、沿岸の定置網、沖合操業の底曳網や巻き網漁場において大型クラゲの出現が少量確認されています。

本県でも福井丸で、10/6~7、20~21にかけて若狭湾で行った大型クラゲ分布調査では、採捕されませんでした。10/12に菜崎定置および菅浜定置にそれぞれ1個体ずつ、10/18に大島定置に1個体大型クラゲが入網したとの情報がありました。

(嶋田 雅弘)

## 〔漁の模様〕

2010年9月の県内の総水揚量は831tで、2009年同月を38t下回った。カジキ類(2010年; 28t, 2009年; 7t以下同じ)、カマス(21t, 8t)、ケンサキイカ(23t, 6t)、アカエビ(76t, 38t)等は上回ったものの、アジ類〔小アジ銘柄主体(32t, 73t)〕、ブリ類〔ツバス・アオコ銘柄主体(23t, 93t)〕、サワラ(175t, 264t)等は下回った。

## 漁業種別の状況

定置網・・・全体では前年より76t下回った。カジキ類、シイラ等が上回ったがアジ類、ブリ類、サワラ等が下回った。

底びき網・・・全体では前年より51t上回った。アカガレイ、ニギスが下回ったがアカエビ、タコ類、ケンサキイカ等が上回った。

釣り・他・・・全体では前年より12t下回った。ケンサキイカ、キダイが上回ったが、ソデイカ、タコ類等が下回った。

## 〔県内主要漁業の9月の漁獲量〕

(単位: kg)

定置網			
魚種	2010年	2009年	00-09平均
イワシ類	5,506	1,518	13,808
アジ類	31,005	71,288	66,461
サバ類	6,079	3,824	20,459
マグロ類	390	598	2,697
カジキ類	28,360	7,043	15,071
カツオ類	871	213	6,367
ブリ類	22,807	92,354	160,919
ヒラマサ(カンパチ)	5,714	2,135	9,810
シイラ	82,206	17,450	81,175
サワラ	175,036	264,181	234,670
マダイ	1,995	3,034	2,629
スズキ	3,294	2,961	1,274
カマス	21,185	7,994	18,221
フグ類	4,324	359	8,835
アオリイカ	12,053	3,936	7,500
ケンサキイカ	6,016	3,158	4,629
ソデイカ	35	1,744	2,997
その他	14,683	14,290	14,043
合計	423,480	499,603	673,849

底びき網のつづき			
魚種	2010年	2009年	00-09平均
その他エビ	4,309	3,829	5,197
その他	80,312	73,697	61,929
合計	340,388	289,815	307,131

釣り、延縄、さし網、その他			
魚種	2010年	2009年	00-09平均
アジ類	654	743	972
サバ類	0	4	102
ブリ類	58	835	907
ヒラマサ	0	57	405
シイラ	5	0	105
サワラ	5	36	63
マダイ	1,890	2,251	3,961
キダイ	9,016	7,222	4,957
アマダイ	5,623	4,936	5,565
スズキ	264	321	338
ヒラメ	337	597	705
タチウオ	15	17	239
アナゴ	287	420	319
メバル類	2,404	3,751	3,284
キス類	348	150	410
スルメイカ	259	318	1,329
アオリイカ	1,910	1,321	2,730
ケンサキイカ	13,017	1,232	11,125
ソデイカ	549	14,095	26,375
タコ類	2,376	4,438	5,786
その他エビ	523	430	599
その他	27,035	35,460	30,067
合計	67,442	79,512	101,836

底びき網			
魚種	2010年	2009年	00-09平均
マダイ	1,349	2,024	2,245
キダイ	16,114	14,571	10,709
アマダイ	1,736	1,090	1,636
アカガレイ	83,672	100,361	74,971
その他カレイ	48,130	34,138	62,347
アナゴ	3,603	3,400	4,120
ハタハタ	2,838	991	2,792
ニギス	5,685	7,292	15,096
ケンサキイカ	4,322	1,262	1,020
タコ類	7,270	3,751	6,558
アカエビ	76,154	38,069	53,312

総計	2010年	2009年	00-09平均※
	831,310	868,930	1,095,003

※ まき網による漁獲量を含む。

## 〔近府県の漁模様〕

(9月下旬から10月中旬にかけての漁獲状況……水揚げ1日または1日1統あたり。京都府の定置網漁獲量は舞鶴漁連への1日あたりの水揚量。)

石川県・・・定置網・・・カタクチイワシ4.3t、シイラ4.3t、サワラ類3.7t、ブリ類3.7t。

京都府・・・定置網・・・サワラ20.9t、シイラ3.0t、アカカマス2.9t、ブリ類887kg。

兵庫県・・・定置網・・・ツバス257kg、カマス126kg、マアジ110kg、シイラ56kg。

鳥取県・・・まき網・・・マアジ22.3t、ウルメイワシ13.9t、ブリ類13.2t、マサバ11.8t。

(鮎川 航太)

## バフンウニの種苗生産

全国的に有名な本県の特産品である「越前雲丹」(写真:1)は標準和名バフンウニの生殖巣を使って作られます。バフンウニの漁獲量は昭和60年代の始め頃までは、殻付きで150~200トンありましたが、その後50トン以下にまで減少し、現在まで回復の兆しがみえず減少傾向が続いています。そこで、人工種苗を生産して放流することにより、漁獲量を少しでも増やすために、12年前から種苗生産の技術開発を行ってきました。その成果として、10万個体以上の稚ウニを安定的に生産できる技術が完成しました。

バフンウニの天然の産卵期は1~3月、産卵盛期は2月ですが、この時期に生まれると漁獲できるのは翌々年の夏以降となります。そこで、現在では、産卵時期を3カ月早めて、生まれた年の翌年の夏には漁獲できる大きさの殻径30mmに成長するように種苗生産する技術の開発を行っています。つまり、親ウニの飼育水温を8月中旬までに15℃に低下させ、この水温を2カ月半維持することによって、採卵が可能になることが判ってきました。

採卵ができる時期になって、親ウニの口部に塩化カリウムの溶液を注入すると、数分以内に放卵・放精が始まります。放卵後は人工的に受精させ受精卵を孵化水槽に収容すると、翌朝には孵化してプリズム型幼生になります。市販の濃縮植物プランクトン(学名:キートセラス)を給餌して19℃で約20日間飼育します。その間に、四腕期幼生、六腕期幼生、八腕期幼生へと成長し浮遊生活が終了します。

この時点で、あらかじめ付着珪藻を付けておいたポリカーボネイト製の波板が入った水槽に幼生を移槽して、採苗します(写真:2)。この時、幼生の稚ウニへの変態を促進させ着底効率を上げるために、採苗水槽には網袋に入れた有節石灰藻を吊します。有節石灰藻が産生する極微量のジブロモメタンという物質が変態を誘発します。ジブロモメタンが変態を誘発する効果は非常に強く、採苗する日が1日ずれると、その後の稚ウニの歩留まりに大きく影響します。例えば、採苗が1日早ければ、未熟な幼生が無理矢理に稚ウニへと変態させられて死んでしまうので、採苗の日を決めるのに気を使います。

その後は、殻径が8~10mmに達した稚ウニを波板から剥離して、籠飼育に移行し、生鮮アオサ、乾燥ワカメ、乾燥コンブを給餌して育成しています。平均殻径17mmに成長した10月末には、三国の海に放流する予定です。人工種苗の放流によって、本県のバフンウニの漁獲量が少しでも回復することを期待しています。  
(日比野 憲治)

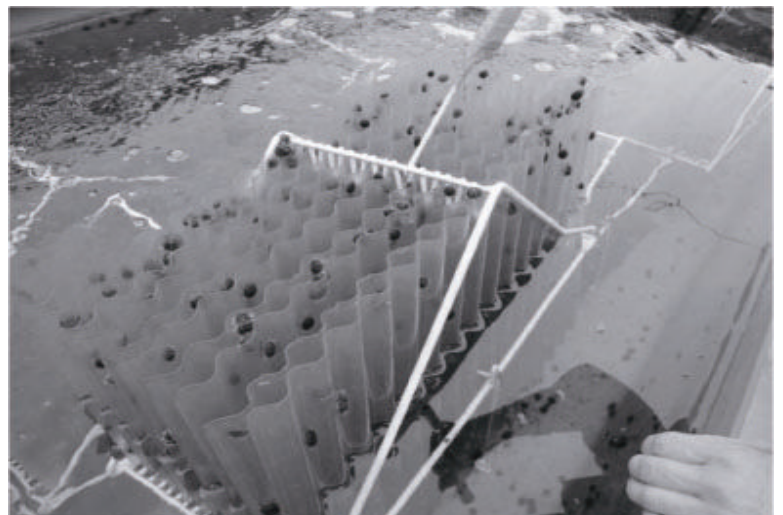


写真1: 市販されている「越前雲丹」 写真2: 波板に付着しているバフンウニ(ふ化後8カ月)

# 福井県におけるズワイガニ「越前がに」の資源状況について

ズワイガニ漁業が11月6日に解禁されますので、福井県におけるズワイガニの資源状況について報告します。

**漁獲動向：**福井県底曳網漁業協会の集計による漁獲量の経年変化は、最低であった S54 年度以降は増加傾向にあり、近年は 500t 前後で推移しています。このことは、漁業者が実践しているズワイガニ資源管理の成果と考えています(図 1)。

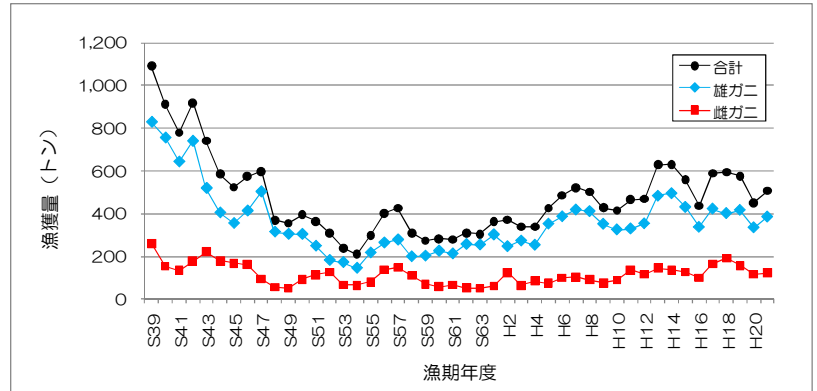


図 1 ズワイガニ漁獲量の経年変化

**卓越年級群（他の年に比べて加入量が特に多い年齢）：**福井丸のトロール網調査で卓越年級群が確認されています。

H18 年の調査で卓越年級群が確認されており、雌では H21 年に漁獲対象となりました(図 2-右)。H21 の調査で確認された卓越年級群は、今年の調査でも甲幅 47mm をピークにした大きな山となって現れています。この群は 2~3 年後から漁獲対象となり、今後の漁獲量・漁獲金額の安定のために重要であると考えられます(図 2)。

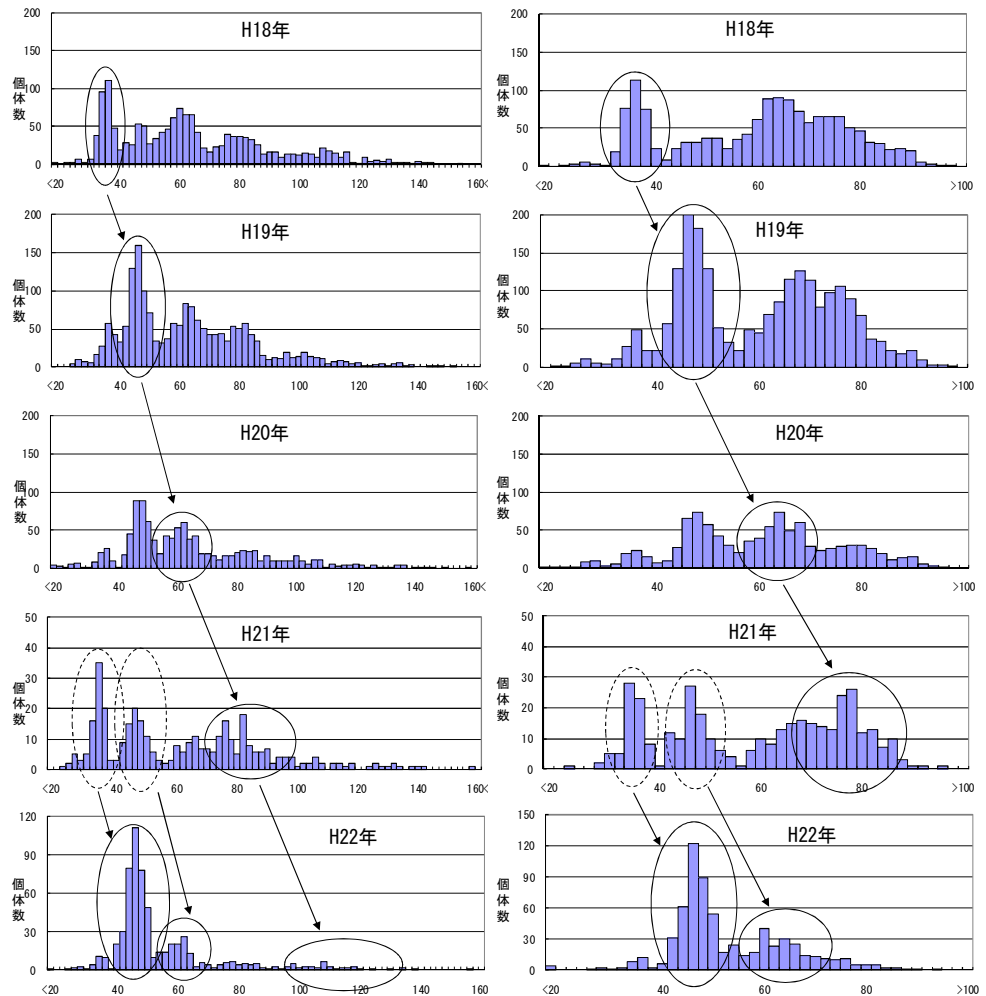


図 2 福井丸トロール調査で採集したズワイガニの甲幅組成 (左：オス、右：メス)

**推定資源量：**福井丸のトロール網等調査結果を基に漁獲対象となるズワイガニの資源量を推定しました。推定資源量は、雄ガニで昨年 (1,484 ト) より若干少ない 1,307 ト、雌ガニで昨年 (753 ト) をかなり下回る 375 トと算出されました。(橋本 寛)